## **令和3年度講演会を開催しました**■■■

7月8日(木)に、オンラインに て「きらめきプロジェクト令和3年 度講演会 | を開催しました。

今回は、九州大学生体防御医学研究所 細胞機能制御学部門炎症制御学 分野 教授 池田史代先生を演者にお



招きし、これまでのキャリアについて、また「小分子ユビキチンによる炎症反応制御機構」についてお話いただきました。

参加者からは、「研究に興味が沸いてきた!」という意見が多数寄せられました。

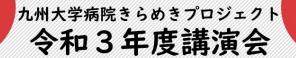


## ■●参加者の声

- ★池田先生の情熱的なお話に感動しました。仕事に持続的な熱意があって実力は 発揮することが再認識されられました。
- ★キャリアアップ、海外留学について、経験に基づいた講演をしていただき、ありが とうございました。どういった信念を持って新しい挑戦に挑んでいったらいいのかに ついて悩んでいたので、とても参考になりました。研究内容はもちろんのこと、講演 の流れにとても躍動感があり、きいていて心踊るような大変面白い講演でした。
- ★それぞれの場所で実績を残していくという生き様がとても格好いいな、と思いました。講演をきいて研究に興味が沸いてきました。
- **★パワーをいただきました!**

## きらめき通信い。のの

2021 年 9 月 (隔月発行)





オンライン会議ツール「Zoom」を使用します。途中入退出は自由です。

演者 九州大学生体防御医学研究所 細胞機能制御学部門炎症制御学分野 教授 池田史代 先生

演題名「小分子ユビキチンによる炎症反応制御機構」



池田先生が、 なぜ研究の道に進んだのか? どのような研究をされているのか?

質問の時間も設けます。 男女問わず、医師・歯科医師の先生、 学生の皆様の象加をお待ちしております。

お申込み

下記URL、もしくはQRコードより申し込み登録をしてください。 ※申込者多数の場合は先着順となります。 事前の質問も受け付けております。

https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/meeting/ register/tJMof-iugz8sEtVa4o711ipQi95FMKFzkv0N



技術協力:九州大学病院 国際医療部アジア遠隔医療開発センター

【お問い合わせ】

九州大学病院臨床教育研修センターきらめきプロジェクト

TEL/FAX 092-642-5203 MAIL kirapro@kirameki.med.kyushu-u.ac.jp



九州大学病院 臨床教育研修センター きらめきプロジェクト

〒812-8582 福岡市東区馬出 3 丁目 1-1

TEL • FAX : 092-642-5203

M A I L : kirameki@jimu.kyushu-u.ac.jp

U R L: https://www.kiramekipj.kyushu-u.ac.jp/





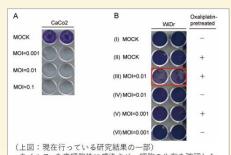
## 日々頑張っている、きらめきプロジェクト所属のドクターを紹介します

留学から帰国後 7 年目の医師です。

きらめきプロジェクトには 2020 年 4 月 よりお世話になっています。私は介護の理由でこのプロジェクトに参加させていただいています。 家族が「病気」になるのはとても大変なことですが、「加齢」により様々な問題が生じたり介護や支援が必要となったりすることは「病気」を発症する前段階のような家族のサポートを必要とする状態といえます。また、それは特別なことではなく誰にでも起こりうることだと思います。私の場合、父の加齢に伴う ADL 低下や誤嚥性肺炎を発症しやすいなどの状態が、身近で起こりました。ADL 低下は転倒のリスクを伴い、誤嚥性肺炎を発症した場合は自宅での抗生剤投与で回復することもあれば、救急搬送が必要になる場合もあります。このような介護を行いながら大学病院での専門診療を継続できるのはきらめきプロジェクトのおかげであり、大変感謝しています。

また、私の場合、留学前からおこなっている悪性腫瘍に関する研究もきらめきプロジェクトのおかげで継続できています。研究を続

けるには研究費が必要になるのですが、現在、文部科学省科学研究費を維持し研究を継続できており、このプロジェクトがなければ達成できていないことだと思います。このきらめきプロジェクトを利用して行った研究の成果を今後、世界に発信していくことができれば、素晴らしいことだと思っています。



(上図:現在行っている研究結果の一部) ウイルスaを癌細胞株に感染させ、細胞の生存を確認した。 A. Caco2細胞株においては、有意な殺細胞効果をみとめた。 B. WID1細胞株(抗癌剤抵抗性)においては、ウイルスaのみでは 殺細胞効果は乏しかったが、オキサリプラチンの前投与により その効果が増強した。

2020年6月よりきらめきプロジェクトに所属させて頂いている、卒 後14年目の医師です。同じく卒後14年目の医師である夫と、小学校 2年生の長男、幼稚園年長の次男、年少の長女の5人家族です。卒後 6年目で専門医を取得した後、7年目に長男を出産しました。フルタ イムの仕事と育児の両立には自信がなく、外来業務中心の非常勤勤務 で復帰し、2年後に次男を出産した後、夫の異動に伴って佐賀へ引っ 越しました。市中病院で週3~4回働きながら、途中で長女の妊娠・ 出産をはさみ4年間佐賀で生活し、乳幼児の育児と仕事を両立するこ とができました。夫の異動で再び福岡に帰ってくることとなり、医局 に非常勤での働き方を相談したところ、きらめきプロジェクトにお世 話になることになりました。現在、大学勤務と外勤を合わせて、週4 日勤務しています。週に1日のお休みがあることで、私だけでなく子 供たちも学童や預かり保育に行かなくてもいい休息の貴重な日となっ ており、また新型コロナ感染による突然の休校や休園にも何とか対応 できました。夫が早朝から夜遅くまで勤務があり頼れず、私自身も育 児に重点を置きたいという思いがあり、私は出産後、非常勤勤務を希 望してきました。常勤で復帰し当直もこなして働いていらっしゃるマ マ女医さんが多いなか、畏敬の念と後ろめたさ、自分の経験や勉強が 足りていない実感と焦りを常に抱えながらも、医局の先生方のご厚情 と家族の協力のお陰で仕事を続けていられる事に心から感謝しており

ます。きらめきプロジェクトのおかげで自身の生活に合わせてキャリアを維持する事ができ本当にありがたい事だと実感しています。これからも周囲の方々の助けを借りながら、精進していきたいです。



Jack-o'-Lanlern

Scary!